



夫が経営する不動産会社を手伝いながら、甲州市や山梨市などで空き家になった古民家を巡るツアーを企画している。首都圏を中心に毎回20人前後が参加しているといい、「すてきな古民家と地域の魅力を知ってもらうことで、参加者に『移住したい』と思ってもらえたらうれしい」と話す。

神奈川県厚木市の出身。都内で会社勤めをしていた夫の帰郷を機に、2014年に甲州市に移り住んだ。自宅の周囲にはブドウや桃の畑などが広がり、昔ながらの風景がすぐに気に入ったという。小正月の道祖神祭りなど、地域の伝統文化も体験。「生活と信仰が密接で、大学時代に訪れたラオスやカンボジアの田舎町と雰囲気似ている」と

# 移住 想像できる旅に



「古民家ツアーで山梨のファンを増やしたい」と語る豊岡さん

古民家ツアーを企画して  
山梨の魅力をPRする

豊岡翠さん 33

感じた。ますます山梨の魅力を感じるようになった」と話す。

一方で、若い世代が都心部に移り住み、周辺地域には、家を継ぐ人がいなくなった空き家が目立っていた。多くは築100年を超える古民家だ。「長い年月を経た古民家には味わい深さがある。古民家暮らしに憧れる人も多く、山梨の文化と一緒に紹介すれ

ば、ファンが増えて移住にもつながるかもしれない」。そう考え、昨年初めてツアーを企画した。これまでに甲州、山梨、笛吹の各市で計4回実施している。

東京で暮らしていた時も、勤めていた旅行会社でツアーの企画を担当していたが、観光スポットを駆け足で巡るのばかりで、「お客さんの記憶に残る仕事をしているのだ

ろうか」と疑問を感じていたという。そのため、古民家ツアーでは、なるべく地元住民と触れ合うことができるルートを設定している。

「季節によって天候はどう変わるか」「仕事は何をしているのか」「地元にはどんな行事があるのか」など、住民から情報を聞くことでできれば、移住後の暮らしもイメージしやすくなると考えている。参加者からも「地域住民の生の声を聞ける機会は貴重だ」と好評で、ツアーへの参加をきっかけに古民家を借り、毎週末、県外から通うようになった人もいるという。

現在は、山梨市で7月9日に開催する次回のツアーに向けた準備に余念がない。「地域が育んだ文化、100年以上も受け継がれてきた古民家を絶やしてはいけない。もっと多くの人に山梨の魅力を伝えていきたい」と意気込んでいる。ツアーの問い合わせは、甲州旅工房ABC(0553・33・7101)へ。

(福島憲佑)

## 「咲くの楽しみ」 ツツジ300株植栽

北杜市大泉町西井出の美し森で3日、「清里高原つつじ祭り」美し森ツツジ群落再生プロジェクトが行われ、参加したおよそ150人が約300株のレンゲツツジの苗を植えた。

主催した北杜市観光協会などによると、美し森周辺のツツジは、周辺の樹木が伸びて、日光が遮られるなどの影響で、株数が減少し



ツツジの苗を植える

の男性教諭が校舎を施設している。

ていた。そのた0年の祭りから、苗の植栽を始め祭りは今回で

## 甲斐春秋

起床後、自宅の窓から富士山が見えるかどうかをチェックするのが日課だ。姿が見える日は、すっきりとした気持ちで一日のスタートを切る事ができる。

## 登山者自ら危

盆地での生活

の県内の遭難性

計が残る19。

降最多の14。

0人)に上り、こ

歳以上の高齢者

占める。今年に

らも事故は絶え

月5日(月曜日)  
5月11日<先負>  
★  
10.3  
正午)  
甲府 4.30  
18.58  
15.00  
2.02  
東京 1.43  
15.05  
8.33  
20.24  
満潮  
干潮  
(若潮)

甲府市宝1-9-1  
2222 Fax 228-6369  
ofu@yomiuri.com

〒402-0001  
124-1 エクセルビル  
6666 Fax 45-5050  
6666 0555-22-0375  
0551-22-0209  
0556-22-0705

http://www.yomiuri.co.jp/local/  
話題、写真などの提供  
編集部へ

読者は  
120-4343-81

- 6103 甲府中央 232-9237
- 4457 甲府東部 242-2733
- 8838 敷島 269-8838
- 3746 下吉田 22-0215
- 6669 河口湖 72-2321
- 1000 谷村 43-3238
- 5053 猿橋 22-0515
- 0532 塩山 33-2848
- 0020 石和 262-2653
- 0538
- 284-5414
- 販売山梨広告社 236-3388
- 223-6123